2025 年度　美術史学会美術館博物館委員会東西合同シンポジウム

学芸員の キャリア・トランジション 2

～「現場の生の声」を聞く、そして考える～

ご参加
お申し込みは
こちら

オンライン
開催

2026
4/5 日 13 時～

大阪公立大学森之宮キャンパス
https://www.omu.ac.jp/morinomiya/

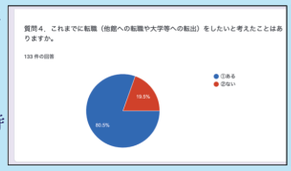
2025 年度美術史学会美術館博物館委員会東西合同シンポジウム

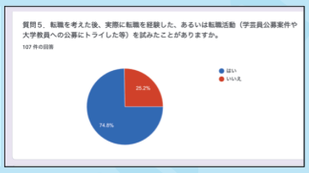
学芸員の
キャリア・トランジション
2
～「現場の生の声」を聞く、そして考える～

ご参加申し込みは
こちら

事前アンケート、ご登壇は
こちら

2024 年 2 月、美術史学会美術館博物館委員会は「学芸員のキャリア・トランジション～その事例と功罪～」と題したシンポジウムを実施し、これは企画者が考えていた以上に、多くの方々の関心を得ることができました。426 名ものご参加を得た他、事前に行なったオンライン上のアンケートも 133 件の回答を得ました。特に事前アンケートの結果は、学芸員の就業状態やはらんでいる問題点、転職への意識など、企画側の予想を遥かに超えるものであったことは間違いありません。質問項目のうち「転職を考えたことがあるか」、そして「（実際に）転職をしたか、転職活動をしたか」に対するご回答や、学芸員のキャリア転換に関する自由記述（69 件）に現代の学芸員が抱えている重要な問題が見えたように思えます。実に 80% を超える人が転職を考え（質問 4）、また実際に転職活動を行なったのが約 75%（質問 5）、さらに転職経験者に「機会があればまた転職を考えるか」を問うた（質問 8）結果は 60% を超える人が「はい」と回答していました。学芸員における「転職」がごく身近なことであり、しかし大きな問題をはらんでいることがわかります。





シンポジウムの開催後、多くの方々から好評の声を頂きましたが、一方で、「時間が短かすぎてディスカッションとは言えないものだった、一日中行うくらいの気持ちで取り組むべきだったと思う」「（登壇者の）全てが、いわゆる「成功者」であり、綺麗事に終始した感は否めない」との耳に痛いお声もありました。

確かに、前述のアンケートの「転職を考えた理由」（質問 4-①-2、自由記述）には、たとえば非正規雇用によって「転職せざるを得ない」という事情や、おそらくは少人数配置の館であるゆえの業務過多、事業費の減少、学芸員という専門職への周囲の無理解（理解不足）といった厳しい現実で、それらを訴える切実な声が多く聞かれました。

そこで今年度の美術館博物館委員会東西合同シンポジウムは、2023 年度に引き続き「学芸員のキャリア・トランジション」をテーマに設定し、今回は、原則として発表者を完全公募し、「現場の生の声」を聞きたいと考えています。なお、職場の内情を話さざるを得ない発表者の事情を鑑み、オンライン匿名（顔貌および肉声の秘匿）での募集（開示してもよい場合はこの限りではない）とします。

学芸員職を目指す若い学生の方は無論のこと、現在学芸員として勤務されておられる方にも、ぜひ「転職をせざるを得ない学芸員の生の声」をお聞きいただき、ご一緒に考えて頂きたいと思います。

はじめに

開会挨拶	美術史学会代表委員	井手　誠之輔
趣旨説明	美術館博物館委員 大阪公立大学	菅原　真弓
基調報告　アンケート結果を基に	美術史学会専門委員 大阪市立大学大学院	渡邊　麻里

第一部　報告

前提：本シンポジウムにかけた想い	美術史学会専門委員 京都芸術大学	田中　梨枝子
報告 1~4（予定・公募）		

第二部　ディスカッション

司　会	菅原　真弓
話題提供	田中　梨枝子 渡邊　麻里

主催　美術史学会、美術史学会美術館博物館委員会、大阪公立大学
後援　（一社）全国美術館会議、日本アートマネジメント学会、 文化資源学会、日本博物館協会、アート・ドキュメンテーション学会、 日本ミュージアム・マネジメント学会（いずれも依頼中）
お問い合わせ　美術史学会美術館博物館委員会事務局（大阪公立大学文学研究科菅原研究室、bihakusympo2025@gmail.com）